

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年7月21日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	6月の価格情報			7月の価格情報		生育及び価格の7月までの見通し (台風11号の影響は、加味しておりません。)				
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格 (平年)	指定野菜の関東・近畿 ブロック別平均販売 価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格 (平年)	指定野菜の関 東・近畿ブ ロック別平 均販売価額					
		中旬	下旬				月上旬			
葉 茎 菜	キャベツ 	67.20	69	82	74.19	83	・入荷量: 15,277t ・主産地: 群馬(58)、岩手(13)	・群馬産は、最近の天候不順の影響も特段なく、病害の発生もないことから、前倒し出荷傾向で、平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は出荷も落ち着き、平年並みの出荷の見込み。岩手産は、干ばつの影響で生育に停滞が見られ、小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・岩手産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。 ・茨城産は、7月上旬の長雨による収穫の遅れで平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は長雨による病害の発生が懸念されるものの、天候が平年並みに推移すれば、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、7月上旬の長雨による収穫の遅れと降雨後の高温により病害の発生が見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。 ・長野産は、7月上旬の降雨による影響は特段なく、現在は平年並みの出荷となっており、病害もなく生育は順調でやや大玉傾向であるため、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・長野産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は、平年を下回って推移する見込み。 ・群馬産は、山間部からの出荷が主体となり、現在は特段の病害の発生はなく、生育はおおむね順調であるものの、今後は7月上旬の長雨後の気温の上昇に伴い、品質の低下が懸念されることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、7月上旬の曇天の影響により生育の遅れが生じ、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は天候の回復が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、7月上旬の長雨の影響で病害の発生が見受けられるが、全体的な出荷に影響しないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、栃木産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。 ・長野産は、7月上旬の長雨の影響で収穫に遅れが生じていることに加え、長雨後の急激な気温の上昇に伴い、病害が若干見受けられることから、平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は天候が平年並みに推移すれば、出荷は回復し平年並みの出荷の見込み。群馬産は、7月上旬の降雨とその後の高温の影響で品質の劣化が見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。 ・兵庫産は、収穫は終了し貯蔵物の出荷となっており、干ばつの影響により小玉であるものの、現在は平年並みの出荷となっている。今後は、前進出荷傾向であることから、平年よりやや多めの出荷の見込み。佐賀産は、収穫は終了し、貯蔵物の出荷となっているが、小玉であるため、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・兵庫産の出荷が平年よりやや多め、佐賀産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は現在平年を大幅に上回っているため、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
		81.66	84	91	88.91	88	・入荷量: 3,999t ・主産地: 群馬(51)、長野(38)			
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	264.10	397	421	273.33	456	・入荷量: 4,416t ・主産地: 茨城(62)、千葉(14)			
		334.73	353	306	487.13	295	・入荷量: 572t ・主産地: 香川(31)、徳島(22)、三重(12)、奈良(11)、大阪(7)			
	はくさい 	67.05	128	88	58.82	72	・入荷量: 5,898t ・主産地: 長野(87)			
		77.96	134	95	62.79	75	・入荷量: 2,634t ・主産地: 長野(97)			
	ほうれんそう 	376.10	466	484	583.95	562	・入荷量: 965t ・主産地: 群馬(26)、栃木(25)、茨城(18)、岩手(12)			
		396.89	550	584	670.86	637	・入荷量: 428t ・主産地: 岐阜(83)			
	レタス (結球) 	120.13	121	121	120.13	121	・入荷量: 9,376t ・主産地: 長野(84)、群馬(11)			
		125.61	125	127	125.61	127	・入荷量: 2,359t ・主産地: 長野(98)			
たまねぎ 	71.02	111	121	84.85	138	・入荷量: 9,081t ・主産地: 兵庫(36)、佐賀(32)、香川(6)				
	71.02	110	122	84.85	139	・入荷量: 3,394t ・主産地: 兵庫(83)、佐賀(6)				
果 菜	きゅうり 	189.84	225	214	210.69	231	・入荷量: 7,829t ・主産地: 福島(36)、岩手(17)、秋田(15)、千葉(6)、宮城(5)、埼玉(4)	・福島産は、最近の気温の上昇に伴い、前進出荷となっていることから、平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は根の張りが弱めであることもあり、平年並みの出荷の見込み。岩手産は、6月の強風により果実に傷がついた影響もあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。秋田産は、ハウス物から露地物へ切り替わる時期であるが、干ばつにより生育に遅れが見られ、露地物の出荷が少なめであることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・福島産の出荷が平年並み、岩手産及び秋田産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 ・青森産は、干ばつ傾向に加え、夜温が低いことから、着色に遅れが見られ、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。北海道産は、6月下旬から7月上旬にかけての低温・日照不足により生育に遅れが見られ、今後は気温の上昇とともに生育の回復が見込まれるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。茨城産は、出荷の終盤を迎え、4月上旬の天候不順の影響で草勢は弱いものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は、生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産及び福島産の出荷が平年並みと見込まれるものの、青森産及び北海道産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 ・群馬産は、7月上旬の日照不足の影響で生育の停滞が見られ、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は病害もないことから平年並みの出荷の見込み。茨城産は、7月上旬の天候不順により平年よりやや少なめの出荷となっていたが、今後は天候の回復に伴い、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、病害虫の発生は見受けられるものの、生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・群馬産及び茨城産の出荷が平年並み、栃木産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、価格は平年並みに近づき、現在は平年を大幅に上回っているため、引き続き平年を上回って推移する見込み。 ・茨城産は、作型の切り替え時期で出荷の谷間となっていることに加え、最近の天候不順により早めに出荷を切り上げていることもあり、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。岩手産は、ハウス物の生育は順調で、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、露地物は干ばつの影響で生育にやや遅れが見られることから、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・岩手産の出荷が平年並みと見込まれるものの、茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
		177.22	232	223	221.71	243	・入荷量: 1,977t ・主産地: 福島(29)、愛媛(22)、北海道(18)、香川(7)、宮崎(6)			
	トマト (大玉) 	209.59	261	273	229.51	271	・入荷量: 8,409t ・主産地: 青森(17)、北海道(14)、茨城(8)、栃木(8)、千葉(8)、岩手(8)、福島(8)、群馬(6)			
		228.53	277	290	271.33	284	・入荷量: 1,928t ・主産地: 北海道(37)、岐阜(17)、熊本(13)、愛知(8)			
	なす 	297.07	357	357	209.55	414	・入荷量: 4,581t ・主産地: 群馬(26)、茨城(22)、栃木(22)、埼玉(5)			
		271.01	326	314	221.72	318	・入荷量: 1,083t ・主産地: 山梨(19)、大阪(18)、徳島(18)、奈良(10)、京都(8)、高知(7)			
	ピーマン 	251.50	346	321	251.50	343	・入荷量: 2,478t ・主産地: 茨城(55)、岩手(29)			
		266.65	320	345	266.65	376	・入荷量: 526t ・主産地: 兵庫(16)、高知(15)、大分(13)、青森(12)、北海道(11)、茨城(14)、宮崎(10)			
	根 菜	だいこん 	86.59	76	82	94.60	107		・入荷量: 8,775t ・主産地: 北海道(59)、青森(38)	・北海道産は、天候に恵まれ適度な降雨もあったことから、生育は順調で品質も良く、平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は最近の低温・干ばつの影響からやや小ぶりであることから、平年並みの出荷の見込み。青森産は、病害もなく生育は順調でやや前進出荷の傾向となっているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・北海道産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。 ・青森産は、出荷の終盤を迎え、これまでの前進出荷の影響から、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は平年並みに比べて早めの出荷の切り上がりが見込まれるものの、平年並みの出荷の見込み。北海道産は、低温・干ばつの影響は若干見られるものの、生育は概ね順調で現在平年よりやや多めの出荷となっているが、出荷の前進傾向により、後続産地の出荷との谷間ができることが見込まれ、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産は、出荷の終盤を迎えて、今後は漸減傾向となり、7月中旬ごろに終了する見込み。 ・青森産の出荷が平年並み、北海道産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに推移する見込み。
			94.24	85	85	100.39	108		・入荷量: 2,967t ・主産地: 北海道(70)、青森(14)、岐阜(12)	
にんじん 		133.01	176	131	133.01	98	・入荷量: 6,319t ・主産地: 青森(39)、北海道(27)、千葉(26)			
		132.62	182	142	132.62	98	・入荷量: 2,018t ・主産地: 青森(42)、北海道(25)、長崎(14)、和歌山(16)			

種類	6月の価格情報			7月の価格情報		生育及び価格の7月までの見通し (台風11号の影響は、加味していません。)	
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格(平成)	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	下旬	中旬	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格(平成)		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格
いも	さといも	344.00	393	305	344.00	403	・入荷量: 293t ・主産地: 宮崎 (47)、鹿児島 (44)、千葉 (5) ・宮崎産は、日照不足などの影響で小玉傾向となっており、後続の産地も若干生育の遅れが見られることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。鹿児島産は、離島からの出荷が中心で、台風などの影響で輸送に遅れが生じ、平年よりやや少なめの出荷となっているが、後続の産地は生育は概ね順調であることから平年並みの出荷の見込み。 ・宮崎産の出荷が平年よりやや少なめ、鹿児島産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		347.90	424	349	347.90	484	
	ばれいしょ	131.80	213	246	101.61	246	・入荷量: 5,700t ・主産地: 茨城 (32)、静岡 (21)、千葉 (19)、長崎 (16) ・茨城産は、干ばつによる影響で小玉傾向に加え、最近の降雨により収穫作業に遅れが生じて、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は降雨による小玉傾向の回復と作付面積の増加もあることから平年並みの出荷の見込み。静岡産は、7月上旬の長雨の影響で収穫作業に遅れが生じていることや長雨後の高温により病害が懸念されることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、最近の天候不順や早期の収穫を行っている影響から小玉傾向で、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年並み、静岡産及び千葉産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		131.80	214	258	101.61	258	

注: 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)で保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、5月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,968gで前年比97%、購入金額は、2,257円で同113%となった。
また、小売物価統計によると、6月のキャベツの小売価格は、167円で過去5カ年平均比122%、レタスは、366円で同116%となり、キャベツ、レタスともに過去5カ年平均を上回った。

年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年		前年比
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	1,755	99
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	1,761	101
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	1,939	103
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	2,070	110
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	2,257	113
6月	5,056	1,902	4,998	1,976			
7月	4,402	1,737	4,542	1,770			
8月	4,315	1,731	4,275	1,846			
9月	4,688	1,844	4,745	2,035			
10月	5,191	1,902	5,455	1,973			
11月	4,990	1,700	5,291	1,704			
12月	5,146	1,927	5,233	1,977			

資料: 総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注: 過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。

月	キャベツ		レタス	
	過去5カ年平均	平成27年	過去5カ年平均	平成27年
1月	212	229	684	827
2月	223	202	631	576
3月	205	169	500	511
4月	243	255	453	555
5月	163	273	365	440
6月	137	167	317	366
7月	160		332	
8月	138		400	
9月	158		591	
10月	174		469	
11月	164		429	
12月	172		546	

資料: 総務省「小売物価統計調査報告」
注: 1 過去5カ年平均は、平成22～26年の平均。
2 平成27年6月の値は、6月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

6月の野菜の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは、前年比111% (中国は同101%、ニュージーランドは同183%)の3万9千トン、にんじんは、同136% (中国は同135%、ニュージーランドは同153%)の8千7百トン、ねぎは、106% (中国は同107%)の5千3百トンとなった。たまねぎ、にんじん、ねぎはそれぞれ前年を上回った。

区分	平成25年		平成26年		平成27年1月～5月		平成27年5月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比	前年同月比	
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	385,343	86	76,319	103
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	733,431	95	153,810	91
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	1,118,773	92	230,130	95
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	544,508	91	110,499	94
中国産シェア	52		53		49		48	

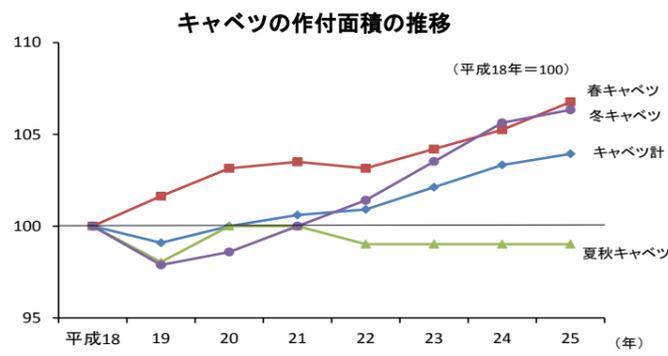
資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料: 財務省「貿易統計」

品目	輸入先	平成26年6月(A)	平成27年6月(B)	(B)/(A)
		たまねぎ	合計	35,172
	中国	31,678	32,139	101
	ニュージーランド	2,899	5,306	183
にんじん	合計	6,435	8,745	136
	中国	6,236	8,442	135
	ニュージーランド	141	216	153
ねぎ	合計	4,997	5,309	106
	中国	4,979	5,307	107

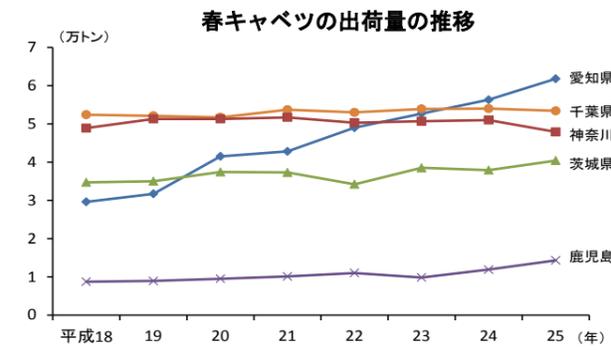
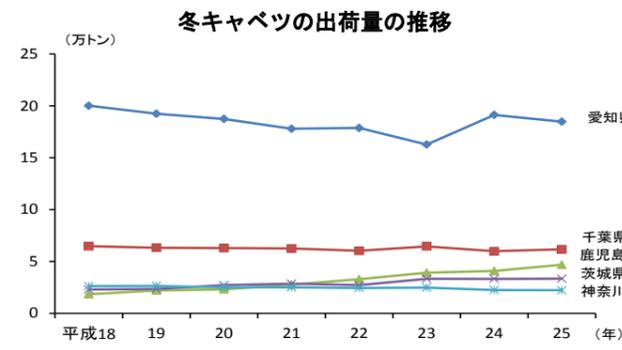
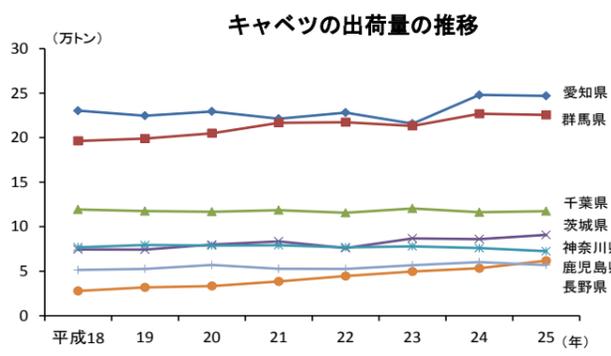
資料: 農林水産省「植物防疫統計」
注: 1 平成27年6月は速報値。
注2: 輸入数量は、検査数量である。
注3: 冷凍を除く。

4 トピック — 最近のキャベツ主産県の生産動向について —

キャベツの需要が、加工・業務用を主体に堅調に推移する中で、最近の主産県の生産動向の特徴を紹介する。
作付面積(平成18年=100)の推移を見ると、特に春キャベツ、冬キャベツが増加している。また、25年の出荷量は、対18年比で108%(127万6千トン)となり、種別では春キャベツは同114%(33万7千トン)、夏秋キャベツは同109%(41万1千トン)、冬キャベツは同104%(52万8千トン)と、特に春キャベツが大幅に増加している。
産地別の出荷量を見ると、上位3県(愛知県、群馬県、千葉県)で全体の約5割を占め、茨城県、神奈川県、鹿児島県、長野県がこれに続いている。最近では、鹿児島県が大きく増加し、平成25年には長野県を上回った。
種別産地別の出荷量を見ると、冬キャベツでは鹿児島県が同254%(4万7千トン)、春キャベツでは愛知県が同209%(6万2千トン)、鹿児島県が同164%(1万4千トン)と、それぞれ大幅に増加している。
このように、鹿児島県と愛知県の出荷量が大きく増加する背景には、○従来から加工・業務用需要に適する寒玉系キャベツの供給が春先に不足傾向であること、○冬キャベツの大産地である愛知県が、春キャベツとして寒玉系の生産を5月まで拡大させていること、○鹿児島県が、冬から春先の温暖な気候条件を活かして加工・業務用を中心に生産を拡大させていること等がとみられる。
このように、春先を中心に寒玉系キャベツも含めた生産の拡大が図られているが、本年4～6月の東京中央卸売市場の価格は、春先の天候不順の影響等から前年比で1割以上上回っている。
今後は、寒玉系キャベツの産地拡大の取組みに加えて、安定供給の取組みの強化が益々重要となってきている。



注: 主たる出荷期間は、春4月～6月、夏7月～10月、冬11月～3月である。



資料: 農畜産業振興機構「ベジ探」、(原資料: 農林水産省「野菜生産出荷統計」)

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetan_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。